

玉

藻

第28号

一九九二年(平成四年)六月三〇日発行

玉藻 第二十八号 目次

生産的な共生のために……………	大江健三郎	1
——他者ととも生きる——		
『源氏物語』遅咲きの桜考……………	伊東悦子	21
古代文学における〈兄妹〉……………	小林薫	30
——古事記の世界をめぐって——		
古代文学と月……………	山川紀子	41
源氏物語における距離の意識……………	玉田智香子	52
——「若菜」以降の紫の上を中心に——		
芥川龍之介研究……………	柴田麻由子	65
——語り手考——		
宮沢賢治研究……………	田澤典子	84
——グスコープドリと賢治と修羅と——		
大江健三郎論……………	細野雅美	98
——信仰を持たない者の祈り——		
近松世話物の漢語について……………	石橋美乃里	111
——近松と『徒然草』との関係に触れて——		
盛岡市方言のアクセント……………	宮 淑	139
〈研究ノート〉		
歌舞伎脚本における漢語について……………	柳田旬子	158
——女性話者の対男女別使用率の特異性——		
一九九一年度卒業論文題目……………		177
彙報……………		182
会則……………		183

玉 藻 第二十八号

一九九二(平成四)年六月二五日 印刷

一九九二(平成四)年六月三〇日 発行

編集兼 フェリス女学院大学国文学会

発行人 代表者 宮 坂 覺

印刷所 ワセダ・ユール・ビル

〒169 東京都新宿区戸塚町一丁目二二
電話(〇三)三三〇三―三三〇八

発行所 フェリス女学院大学国文学会

〒231 横浜市中区山手町三七